

改訂の序

麻酔科医の使用する薬剤をみて、研修医あるいは他科の医師にその使い方を探ねられることがある。いわゆる“麻酔科的な”使い方について問われているのだと思う。特に、麻酔科医が使う薬は“さじ加減”次第で患者状態を左右するため詳しく知りたいものが多い。そのような薬剤をまとめて、使いやすい薬剤ノートを作りたいと考えた。何でも載っているものでなく、周術期に使用する薬剤で実用的な内容だけをピックアップし、麻酔科医のスパイスを加えた“ちょっといい”ノートだ。研修医はもちろん周術期管理に関わる外科系医師や看護師、薬剤師、MEなどの周術期医療に関わる医療従事者をはじめ、初期臨床研修医の皆さんは麻酔科医がどのような意図で薬剤を使用しているかがわかると仕事がしやすいだろう。

今回の改訂版を編集するにあたっては、初版同様に古い薬は思い切った削除を行い、現在よく使用する薬剤のみを採択した。普通の「薬品集」と異なるのは、周術期に遭遇する状況に限定した実践的な使用方法につき解説しているところにある。1薬剤1ページを基本とし、量が多く偶数ページになるときは必ず見開きにするなどの工夫は踏襲した。適宜コラム欄や解説のページを設けて、常識的に知るべき薬理や薬剤の性質、特殊な使用方法なども解説した。適応外使用についてもその旨を記載した。薬品の添付文書にあるような回りくどい表現を使用せず、短い端的な表現として読みやすさに力を入れた。

本書は、学習の便を最優先したため、正式名称ではなく略称を使用しているところや添付文書を網羅していないところがある。少しでも気になる場所があれば以下のURLにある各薬品の添付文書で確認してほしい。

http://www.info.pmda.go.jp/psearch/html/menu_tenpu_base.html

〔医薬品医療機器情報提供ホームページ〕

2014年10月

讃岐 美智義